

鳥飼まちづくりランドデザイン説明会 議事録

日時：令和5年6月17日（土）

9：30～11：35

場所：新鳥飼公民館

【出席者】

■住民：18名

■運営関係者：

所 属		役 職	氏 名
摂津市	市長公室	公室長	平井 貴志
	〃	副理事	森川 護
	〃 政策推進課	参事	寺田 莊史
	〃 政策推進課	副参事	衣川 智久
	〃 政策推進課	主査	関本 敏晴
	〃 政策推進課	副主査	近重 佑太郎
	〃 広報課	課長	仲野 誠
	総務部	理事	丹羽 和人
	〃 防災危機管理課	課長	竹下 博和
	生活環境部	副理事	川本 勝也
	〃 産業振興課	課長	鈴木 誠
	建設部	副理事	寺田 満夫
	〃 水みどり課	課長	宮城 陽一
	保健福祉部 保健福祉課	課長	浅尾 耕一郎
	教育総務部 教育政策課	課長	松田 紀子

【議事次第】

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 資料説明
4. 質疑応答
5. 閉会

【配布資料】

- ・鳥飼まちづくりランドデザイン説明会 企業と住民の共存発展エリア 1回目
～エリアの将来予想・取組の方向性の共有～
- ・鳥飼まちづくりランドデザイン

【質疑応答議事録】※質疑応答の区切りを、奇数回・偶数回で色分け。

●質疑応答

1	住民	・将来予想のイメージ図はどの場所を描いたものか。
	市	・具体的な場所を特定したものではなく、あくまでイメージとして示したものである。
	住民	・イメージ図に示されているような大きな公園を新しく整備するのか。
	市	・今後ご意見をいただくなかで、そういったご意見があればその方向性に向けて実現できるかどうかも含めて意見交換をさせていただきながら、検討を進めさせてもらうことになる。
2	住民	・P. 47で市が住民に聞きたいこととあるが、プロジェクトが始まってから4年になると思う。3年以上この問題を取り組んできて、将来予想を達成するために、市としては今現在何が足りないと考えているか。
	市	・これまで策定委員会等からのご意見をもとに鳥飼まちづくりグランドデザインを取りまとめ、市の考えを示させてもらっている。この内容について市が考えていることと、住民との考えに違いがないか、足りない部分等がないか確認していきたいということで今回説明会を開催させてもらっている。
	住民	・鳥飼まちづくりグランドデザインに足りないと思う部分が全部入っているということか。
	市	・その認識である。
	住民	・災害時には住民同士で助け合い、企業とも連携していくことで、支援体制を構築していくという将来予想を説明されたが、その将来予想を実現するためにそういった地域コミュニティの土壌がすでにあると思っているのか。それとも、現状足りない部分があるなら、地域コミュニティ醸成のために今後どういったアプローチが必要と考えているのか。
	市	・自治会数が減少するなど地域コミュニティは市全体で希薄化している。グランドデザインではコミュニティの活性化についても課題として認識しており、今後ワークショップ等が人と人を繋ぐ機会となるような場にしていきたいし、また、そのような場を通じてどうすべきかを考えていきたい。
	住民	・まちづくりの根幹が地域コミュニティと言われるが、毎年自治会員やこども会等は規模が減少している状況において、水害が発生した時は、広域避難しないといけない。平時から要支援者の避難対応を誰が行うか、普段からの情報共有を含めて地域の中で役割分担を決めておかないといけない。 ・地域コミュニティの活性化は何がきっかけになるのか。これまでの3年間の取組の成果について聞かせてもらいたい。
	市	・地域コミュニティに関しては、コロナ禍以降、最近になって活動されているものもあれば、なくなってしまったところもある。これまでは自治会や町会を中心にコミュニティ形成を考えていたが、市民活動団体等新しいコミュニティにも広げて検討していかないといけない。

		<ul style="list-style-type: none"> このエリアにおいては企業の方にもどのように協力してもらうか、まちづくりの中で一緒に考えてもらいながら、新しいコミュニティの形を作っていきたいと考えている。
	住民	<ul style="list-style-type: none"> 防災の観点から、市の資源として防災サポーターを養成していることが挙げられる。防災サポーターに若い方をもっと増やして地域活動を担っていただくとともに、企業の方にも防災サポーターになってもらう必要がある。また、要支援者のため民生委員にも防災サポーターを浸透させていく必要がある。子ども向けには防災フェスタも摂津市では積極的にされている。防災サポーターは市域に点在しているので、様々な世代の方とうまく繋げていくことが、今後の地域コミュニティ醸成に向けたカギになるのではないかと考える。 まちづくり条例等、これまでも住民から提案されているので、過去に出された意見を加味したうえで説明会を実施してもらいたい。せっかく意見を出したとしても意味がない。
3	住民	<ul style="list-style-type: none"> 鳥飼まちづくりグランドデザインは構想として、よくできていると思うが、いつまでに実現できるものかが示されていない。これまで、この3年程度の間に出た意見に対し行政はどう対応してきたか。 市に住みたくないと思われたときに鳥飼まちづくりグランドデザインが実現できても遅い。 鳥飼銘木団地は卸売がメインであり、小売りはしていない。銘木のことを知ってもらえるのは非常に良いことだが、行政としては鳥飼銘木団地の方とどの程度お話をされているか。 浸水深が示されているのは、干潮時からの高さを基準としているのか。 淀川は上流に大きなダムがある。それが耐えきれなくなった時に放水されるが、放水までは時間があるので、要支援者も事前に避難ができる。避難先は安威川以北へ避難したら良い。地震は予知できないが、説明では同じように言われている。この3年でどこまで住民の意見を聞かれて、どういった話をして最終行政としての判断として今日の資料になっているのか。スケジュール感を示さないと絵空事になる。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 鳥飼銘木団地との関わりに関しては、シティプロモーション戦略としてPRを展開している。銘木団地は全国でも珍しい地域資源という点で着目しており、青年会の方々ともお話しをさせてもらい、昨年は大阪銘木フェスタを実施し、椅子づくり体験をはじめ、木材に触れあえるイベントとあって多くの来場者が見られた。詳細は決まっていないが、今年度も多くの人が集まってもらえるよう、銘木団地内の通りも活用するなど、もっと銘木団地を知ってもらえるよう、青年会として新たなマインドを持ってイベントを継続実施する予定となっている。今後も地域の方との協議のもと、鳥飼銘木団地の知名度向上及び市の魅力向上にも繋げていきたい。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 浸水深は土地からの高さからが基準となる。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 将来予想が十分できているというご意見をいただいたが、住民の皆様が実際にそう思われているかを確認したうえで将来予想を確定したいと考えている。今

		後、ワークショップ等の意見交換を通じて進めていく予定としているが、じっくり時間をかけて進めていく必要があると認識している。できるだけ早く取組を進めていきたいと思うが、スケジュールとしていつまでとは申し上げられないのが現状である。
	住民	・それでは進まない。公園を開放するなど、すぐできることはあるはずである。今できること、5年後10年後にできることを書いていかないと意味がなく、なかなか前に進まないのではないか。
	市	・様々なご意見を踏まえ、すぐにできることと、時間をかけて取組を進めていくことを分けて考えていきたい。
	住民	・次回の説明会が9月に開催されるとのことだが、その時までにはすぐできること、時間をかけて考えていくことを明確にしてほしい。そうしないと住民が安心しないと思う。
4	住民	・鳥飼銘木団地は卸売のみでは衰退するだけなのは理解している。最近は小売りも展開してきているところもある。市が鳥飼まちづくりランドデザインで銘木団地を取り上げてもらい、人が集まる地域資源として注目してもらっているのはありがたいし、協力したいと考えている。
5	住民	・鳥飼まちづくりランドデザインはどれくらいの人が作成に携わっているのか。 ・このエリアを実際に歩いた人がどれくらいの人数いるのか。実際に歩いてみると、どこの道路が狭いとか、自分たちで気づけるのではないか。鳥飼は広い。自動車が必要と思われがちだが、歩いている人と自転車が意外と多いと感じる。
	市	・鳥飼地区まちづくり担当は5名だが、組織横断的に対応している。
	市	・今回対象の地域は、昭和40年代後半から土地区画整理事業により道路や公園用地は土地を譲っていただき、つくってきたまちである。道路に接しているところは工場や倉庫が多い。住宅地もあるが工場と隣接することで弊害があることも認識している。大型車両の通行によって歩行者の安全上の問題等、交通上の支障があることも課題と認識したうえで、鳥飼まちづくりランドデザインを策定している。
6	住民	・今回の説明会の対象エリアではないが、鳥飼八町の地域計画の策定とエリア④田園エリアの農については非常に注目している。鳥飼八町地域には、実際には農道と用排水路が整備されていない田園が多い。産業振興課で農地所有者へのアンケート等を実施されたが、地域計画は令和5年度中に策定しないとされている。将来予想イメージ図では綺麗にイラストが描かれている。鳥飼八町に特化した説明会を早急にも実施してもらいたいと考えているが、その予定はあるか。農業委員会と地元としても、地域計画策定にあたり鳥飼まちづくりランドデザインとの関連性を踏まえたいと、この2年で動いていかないといけない。
	市	・鳥飼八町における地域計画の方向性と鳥飼まちづくりランドデザインの方向性は同じである必要があるのは認識している。農業委員会とも連携をしているので、両計画の方向性をしっかり合わせて進めていきたいと考えている。エリ

		ア④の説明会は、秋の収穫作業が落ち着いた時期の10月下旬頃の開催を考えている。
7	住民	<ul style="list-style-type: none"> 色んな方の意見を聞いていて、感じたことは、市が説明する中身について、地元の方と事前にコンタクトを取って話ができているのではないかと。市内でももっと話し合いを行ったうえで、役所の方も地道な活動をもとに、もっと地元のことをわかったうえで説明してもらわないといけないと思う。
8	住民	<ul style="list-style-type: none"> 鳥飼全体をみて、鳥飼まちづくりグランドデザインを作っていると思うが、人が賑わえるイベント等、今できることは進めていけば良い。道路拡幅や公園整備などは土地とお金が必要となる。そこまでお金をかけて人口を増やすことができるのかは疑問である。将来性が見えないのに計画をしても絵空事になる。いつ計画が実行できるのか、スケジュールを見通せない費用面にも関わってくる。まちづくり全体の事業は5年や10年でできることとは思えない。全エリア一斉には無理だとしても、一部ずつ実施していく等、スケジュールを住民に発表できるような計画にできないか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 鳥飼まちづくりグランドデザインは子や孫の世代を見据えて考えた将来のまちづくりについて記載している。できるものから順番に取り組んでいくことが大事であると考えている。将来像を市民の皆様と共有して、目標に向けてどれから取り組んでいくかを検討していきながら進めていきたい。例えば、道路問題の課題を考えた場合、課題の目的は歩行者が安全に通行することだと考えている。そのために、道路拡幅というご意見が出ているが、実際にはとても時間がかかることになる。だからと言ってその間にもやらないのではなく、今できる安全対策としては車と歩行者の空間を分けるためグリーンベルトを設置することが挙げられる。最終的な形として見えてくるには時間がかかるものも存在するが、市民の皆様と協働しながら進めていきたい。
	住民	<ul style="list-style-type: none"> 鳥飼地区の人口がどんどん減少していくなかで、計画を長期で見たときに現状のイメージとして、他市に比べて治安が悪いイメージがある。そのようなイメージを払拭するために、住宅を建てる際の補助や、若い世代への補助を考える等、住む人にとって住みやすいまちと感じてもらえるような取組を考えないといけないと思う。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘いただいた視点は重要であると認識しており、行政としても行政経営戦略をはじめ、市全体としての対策として、既に取り組んでいることもある。予算の制約や優先順位もあるため、いただいた意見については全庁的に共有のうえ課題に対応していきたいと考えている。
9	住民	<ul style="list-style-type: none"> 財源問題に関して、市は鳥飼まちづくりグランドデザインを実現していくのに、どれくらい費用をかけられるのか。ヒトとカネの問題は常に付いてくる。千里丘駅西口再開発等安威川以北にはたくさん費用をかけているが、安威川以南への投資は少ない。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 鳥飼まちづくりグランドデザインにいくら予算が確保されているというのは現時点ではない。予算の優先順位によって取組に時間差が生じることはあるが、予算がないからやらないというわけではない。ある程度時間をかけて実現可能

		かも含めて優先順位を考えたいので取組を検討していきたい。
10	住民	<ul style="list-style-type: none"> 労働人口をどうカバーするかという問題について、あるテレビ番組で外国人が日本に定住することが紹介されていた。今日配られた鳥飼まちづくりランドデザイン冊子のP. 52にも記載されているように、外国籍の住民が増えているなかで、今後労働人口をカバーするためには、摂津の企業も外国人の労働力を借りるしかないと思う。市の行政としても、外国籍の方を受け入れる包容力と多様性をもって取組を考えていく必要があるのではないかと考える。意見として述べさせていただく。

以上